

飲水思源

町長

松岡市郎

「呼び名」論争?

人の名前や地名の呼び名、同じ文字であっても音訓読みによる違いなど、日本語の呼び方はさまざまな場合がある。例えば山家の場合に「やまか」「やまいえ」「やんべ」などがある。出身地によっても異なる。

さて、大雪山(だいせつざん、たいせつざん)の呼び方であるが、「大」を「たい」という場合と「だい」と濁る場合がある。どちらが良いのだろうか。

大雪山の命名は鳥取県出身の今でいうジャーナリスト、松原岩五郎氏が全国を探検し、その著書「日本名勝地誌」(明治32年発行)に「大雪山」(だいせつざん)とルビをふったのが始まりだと聞いた。その10数行後には「大雪山」(たいせつざん)と、「だ」から「た」になっている。ある人は鳥取県にある「大山」(だいせん)に似ていることから「大」は「だい」だと。ならば「だいせつざん」が正しいということになるのだが…。

一方、温泉水、飲料水、農業用水などの恵みを私たちにもたらす大切な山「大切山」に由来し、「たいせつざん」が良

いのだとも。温泉関係者が「大雪山は大切な山である」と唱える。これにはだれもまったく異論はない。

そんなことを思いながら床についた。「東川」の呼び名は「ひがしかわ」か「とうせん」か、と議論が始まった。あ

る人は、「『あづまがわ』は、それは将来の大横綱の呼び名だ」と。本町では、東川神社(ひがしかわじんじや)と東川寺(とうせんじ)がある。本町の大切な産物「お米」とそのお米で製造したお酒も「東川米」と命名されているが、果てさて、「東川」を何と呼ぼうものか?

「それはやっぱり『ひがしかわ』だ」「いやいや、お米もお酒も選挙には不可欠なもので『とうせん』が良い」「選挙時には『使って東川米』に引っかけ『つ勝って当選米』」「必要に応じて使い分ければいいのだ」などと議論が熱くなつた。そして東川米が大ヒット商品になつていった。

「やがて、ふと目が覚めた。「なあんだ、秋の夜長の夢か…」。「とうせん」も縁起とパワーを感じるのであるが…。

俳句

新婚の植樹の木々も秋の色	杉山
包丁を食ったか南瓜切れぬま、	山口
秋思かな皆一年の速さ言ひ	横田
芒揺れ盆地望みし田舎宿	若田
星月夜お寺の屋根の広きこと	高瀬
嘘見抜く老いのまなこや温め酒	石澤
稽田や仕事を終えし農日記	澤田
舞いおちる紅葉お供に句碑めぐる	松山
錦絵を野分が描く駐車場	三島
秋思ふと父の背な母の手のひら	若田
新米の湯気の向こうに旭岳	本田
からからと落ち葉さすらい秋思かな	山内
うなだれてるるひまわりの秋思かな	長谷川
秋思など知らぬ少年石を蹴る	小林
どの風に乗ってみようか秋思かな	高橋
岐登牛や我が住む里へ落ち葉舞ふ	杉山
臆病な咳ひとつして秋思かな	保科
糸切歯光らせ秋思断ちにけり	徳光

